

夏祭り



NO.409
 R3年8月1日
 -発行-
 〒869-1217
 熊本県菊池郡
 大津町森54-2
 社会福祉法人
 三気の会
三気の里
 ☎096-293-8100



8月



1班「関わりの中で」

今年度3班から1班へ所属が変わり、当初は作業や活動において分からないことばかりで戸惑う場面が多くありました。また担当の利用者さんについても、どのような関わり方が必要なのか先輩支援員に聞き、作業の時や普段の日課の中で、利用者さんの事を知る為に積極的に関わり、どんな特性があるのかを知るところから始まりました。

その中でもAさんは、当初はあまり目を合わせてもらえませんでした。最初は声掛けをしても、なかなか振り向いてもらえなかったAさん。しかし、余暇時間は一緒にテレビを観て過ごし、作業時間は一緒に作業に取り組むことで、徐々にではありますが、目を合わせて話を聞いてもらうことができるようになりました。

このように積極的に関わることで、Aさんからの反応が変化していくのを実感することが出来ました。これからも、利用者さんとの関わり方や方法を利用者さんとの関わりの中で学んでいきたいと思えます。

支援員 菅原 恵太

2班「レクリエーション」

先日、2班のレクリエーションが実施されました。外出制限がかかる中、ドライブ・園内でのお弁当・TVゲーム（eスポーツ）・おやつ、といったように園内での活動がメインとなる、今までとは異なった流れで実施しました。レクリエーションとは何かと考えます。辞書を引いてみますと「娯楽として自由時間に行われる、自発的・創造的な様々な余暇の活動のことである」とあります。遠出をする、お店で食事をする、普段出来ないことをするということが分かります。人それぞれ娯楽の価値観は異なりますが、笑顔になれるような楽しみのある有意義な時間が求められるのかもしれませんが、今回TVゲームをした中で、皆さんが笑顔で元気に集中して参加する姿がとても印象的でした。これこそまさにレクリエーションと言えるものなのかもしれません。

楽しみに特別はいりません。普段の生活の中に、少しでも多くの笑顔を引き出せるような関わりとは何だろうか、改めて見つめ直した1日となりました。

支援員 麻生 聡一郎

3班「共に成長する」

梅雨が明け、蒸し暑い日が続いていますが、3班の利用者の皆さんは暑さに負けず元気に作業に取り組まれています。

前年度から担当させて頂いているKさんは、長い時間作業をすることが苦手な方です。1年目の私は、野菜の作業が始まると離席されるKさんにどうしたら取り組んでもらうかを考えていましたが、なかなか上手に関わるできませんでした。そこで、作業場面に限らず生活のあらゆる場面でKさんに沢山話しかけたり、日常の中で楽しいことを一緒に経験していくことに焦点を当て、関わるようにしました。初めは上手くできないと悩んでいた作業も、今ではKさんから進んで作業の準備をするなど、やる気を見せてくれるようになりました。

出来ないと言って頭の中で悩むよりも、とにかく利用者の方と関わり、同じ経験を共有するなど実際に行動に移すことが大事だと思えました。これからも利用者の方と共に成長していきたいです。

支援員 小林 奈央

4班「見て！」

日課の中に「洗濯物畳み・入浴準備」があります。洗濯された衣類が利用者さんそれぞれの籠に入っており、それらを自分の居室で畳みタンスに仕舞い、その籠に入浴に必要な衣類を準備するというものです。

ある日、いつもの様に準備にとりかかる際に「入れ替えましょうね」と声を掛け、少し離れて見守っていました。数着ずつある下着や靴下、パジャマ等ですが、やっぱり“お気に入り”を選ばれます。洗濯はしてある為、毎日それでも良いのですが、色々な洋服を着て頂きたい思いから、「こっちを着ましょう」と提案すると、「何でね、これで良かたい」と返されます。「ああそうか、そうだった」と替えて下さる事もあります。さて、その日のYさんは私の所に来ると「入れ替えて来ましたよ、ホラ！スゴカでしょ！」と自分から籠の中を見せてきてくれました。「ワァ～！スゴイ！本当だ、良く出来てますね！」と言うと、「ハンカチも替えましたよ。ウフフ…」と言われ、利用者さんも達成感のある表情をされていました。ひとつひとつの達成感が大きな自信になるのかな、と思う出来事でした。

毎日のちょっとした事で幸せな気持ちにさせて頂ける利用者さんに感謝し、今後も楽しく過ごしていただきたいと思います。

支援員 芹川 久美

5班「トラブル」

先日、お弁当をテイクアウトし、(人との接触を避けた)天草の海を見ながら食べるミニレクレーションを実施しました。定期的に車の整備を行っていたのですが、道中、車のタイヤがバーストするというアクシデントに見舞われました。「パン」という大きな破裂音に、車を路肩に停めて確認。乗っていた利用者の方にもどのような状態なのか車から降りて確認してもらい、これから修理をすること、修理の間は外で待つことをなるべく丁寧にわかりやすく説明すると、「お弁当」とこの先どうなるのか心配な様子でしたが、修理の間の1時間程待つことができました。幸い利用者さん支援員ともに怪我はなく、少し予定より遅くなったのですが美味しいお弁当を食べ、帰る時には何事もなかったかのように笑顔が見られていました。皮肉にも熊本地震を経験していたことは利用者の方の受け入れる力を強くしたのかなと思いました。それと同時に普段の支援が今回のようなトラブルにも対応できる力を伸ばすことができたのかな…とちょっぴり思ったりもしました。事故や災害は望んで起きているわけでもなく、なるべく避けるように、起こさないようにしていますが、どうしても避けられない時もあります。事故防止や災害防止は万全を期しつつ、並行して起こった後の対応も支援に盛り込みながら、困難な状況も乗り越えられるよう努めていきたいと思います。

主任 佐藤 和也

GH新「暇時間を良か時間に！」

私が新の皆さんに見習いたい事。それは、余暇時間を自分にとって、良い時間にする事です！毎日のコツコツは、必ず心と身体の為になることを実感しています。皆さんは、掛け声をかけながらのコツコツ体操やエアロバイク。それぞれの得意分野で、絵を描く、パズルやスクラッチアート、漢字の練習などを楽しまれています。さあ！これからはじまるかな？とみんなのスタンプカードをテーブルに準備されるSさん。やる気満々です！コツコツ体操の動きよりも掛け声に気合いが入っているTさん。皆さんから笑顔頂き!!

ある日Mさんに『今日は、私を描いてください！』とお願いしました。するとニヤッとされて、チラチラ見つめながら頭や顔の形、服の色や特徴をとらえてクレヨンの鮮やかな色で仕上げていかれました。画用紙に描かれたエプロン姿の自分を見ながら、嬉しさと元気が湧いてきました。皆さんありがとう!!

いつも毎日があっという間に過ぎていくような感覚は、もしかしたら無駄に過ごしている時間が多いのかもしれないと、気づかせてもらいました。気持ちのいい運動や、興味のある好きなことをもっと楽しまなくては!! 私も皆さんを見習って、良か時間を増やしていこうと思います。

GH新世話人 寺田 ひろみ

療育雑記

「もしアメリカ野球のメジャーリーガーが日知協の『はじめて働くあなたへ』を読んだら」

部長 松本 慎太郎

思うのですが、福祉で働く人って、人の悪口を言いません。悪態なんかはつかないんです。施設で働く人って、SNSで誹謗中傷とかをしません。簡単に、卑怯なことはいないんです。だって、そういったことが他者にとどのような影響をもたらすのかわかるので、気を付けたり、意識したり、あとで反省したりすることができるところです。

ちょっと前のことですが、メディアやSNSである人が「この新型コロナウイルスに苦しんだ経験は、人の気持ちを理解する上でとても重要だと思えます。世の中、思い通りにいかなくても誰かを批判するのではなく、誰かのために力を発揮できる強い大人でいてください」と。またある人は「次から次へと情報があふれる時代の中で誰かを批

判したり、自分と他人を比べて常に優劣をはかり、不安と安心を行き来する生き方ではなく、自分と他人を肯定し合える考え方や誰もが互いを励まし合える未来になるように」と言っていました。発言の理由は、福祉とは関係のないことでしたが、私たちは職業柄、常日頃からこのようなことを考え、実践しているはず・・・です。

福祉の仕事は、資格を必要としない部分もあるため、意欲があれば誰でも働くことができる仕事の一つですが、必要なモノはあります。時の人「大谷翔平」は、高校1年生の時に目標達成シートを作成し、その中に「あいさつ」「礼儀」「ゴミ拾い」「感謝」「継続力」「本を読む」「相手を思いやる心」「道具を大切に使う」などを掲げていました。ワイドショーなどでも取り上げられています。四球で一塁に向かう際、落ちていたゴミを拾ってポケットにしまったら、ネクストバッタースークル内の道具を整理したり、相手打者の折れたバットを拾い渡したりする行動は、それを裏付け

るものだと思います。注目されるほど色々あるでしょうが、笑顔をやささない人柄も含めて、皆さん一様に、誠実、礼儀正しい、紳士的などと評価されています。その考え、言葉、行動には学ぶものが沢山あり、そう思われている方も少なくないのではないのでしょうか。自分と比較した時に、私が27歳だった頃の言動を振り返ると、身震いするほどの寒気がします。その道のプロと呼ばれる人は、どこでもプロに成りうるものを持っているのかもしれないね。

福祉で働く人は、「自己や他者の感情を知覚し、自分の感情をコントロールする知能を指すEQ（心の知能指数）」が高い人が多いと言われています。人を相手にしているため、他者というものを強く意識しなければならぬのです。しかしながら福祉で働いているから聖人君子って訳にはいかないものです。愚痴の一つや二つはあります。正直、たくさんあります。ですが、この仕事をするからには自分の言動が相手にどう影響するのかを考えられるだけ考え、努力と反

省を繰り返す続けることが必要だと信じています。

三気の里の「三気」には由来があります。長崎の近藤益雄先生が福祉に携わる者の必要な美德に「のんき、こんき、げんき」があるとされており、この三つの気をとって「三気」と名付けられました。実践することは簡単なようで、とても難しい「のんき、こんき、げんき」ですが、三気の里の求める人物になるべく、大事にしていかなければならないと思っています。



課長便り

「想(こころ)」

支援課長 岩田 幸児

前号の巻頭言で掲載しましたが、以前三気の里に入所されていたMさんの訃報が届きました。

コロナ禍の為、代表者のみがお葬式に参列させていただくこととなり、多くの職員はきちんとお別れが出来ないままでした。

その為、三気の里で職員に呼びかけ「偲ぶ会」が催されました。十数名の職員が集い、Mさんが三気の里で過ごされた日々の思い出写真のスライドを見ながら、「あの時はどうだった」「こんなこともあったよね」等、職員それぞれが思い出を語り合い、Mさんとのエピソードの数々に温かな雰囲気包まれた「偲ぶ会」となりました。

語られるエピソードの一つひとつに「Mさんへの思い」が込められており、職員の気持ちの温かさや「想い」の強さを感じました。

利用者の方の支援は、頭で考え(思い)支援を組み立て、そして、利用者の方の生活がより豊かになるようにしたいという職員の「想い(気持ち)」(勿論、利用者ご本人と家族の想いを踏まえて)

夏祭り

「夏祭り」

支援員 杉本 安代

の上に成り立つのではないかと思います。「偲ぶ会」を通じて“想うこと”の大切さを改めて感じる事が出来ました。

7月16日、毎年恒例の夏祭りが開催されました。準備にあたっては、夕食メニューのアンケート作りを始め、係を中心とした打ち合わせ、ポスター作成など約1ヶ月前からの取り組みでした。当日、浴衣や甚平、アロハシャツなど夏を感じる装いへと着替えた利用者さんは、夕食(焼きそば、お好み焼き、フライドポテト、ジュース)を楽しまれた後、園舎内のフロアを活用しての模擬店を巡って過ごされました。生憎の天候で、盆踊りは中庭から食堂へと場所を変更、手持ち花火は急遽中止(別の機会イベントを計画中)となってしまうことが残念でした。しかし、輪投げコーナーでは定位置から身を乗り出して輪を目標物にめがけて投げ入れようと真剣な眼差し、3種類のかき氷にちょっと迷いながらも

選んだものを美味しそうに頬張る表情など、普段とはまた違った利用者さんの様々な反応を目の当たりにでき、閉会する頃には利用者さんやスタッフの多くの笑顔で溢れていました。夏祭りを開催するにあたりご協力頂いた全ての方に感謝申し上げます。



研修課

「新しい研修の形」

主任 森田 康之

今年度の研修課は「series(分かる、変わる、身につける)」を目標に掲げ、三気の里の基本

方針のひとつである「支援者の資質向上」に向けて取り組んでいます。私事ですが、今年度より研修課のまとめ役を担う事となりました。研修情報の多さに四苦八苦しながらも、職員に有効かつよりの確かな研修の実施ができるように調整しているところです。昨年より新型コロナウイルス感染症防止の観点から、あらゆる場面で生活の変化が起きました。それに付随して研修形態も大きく様変わりしました。

これまでの受講する為に越県して現地に赴いたり、外部講師を招いたりすることが難しくなりました。いわゆるオンラインでの研修受講が主体となっていくこともその変化のひとつだと感じています。様々な面でメリット、デメリットがあると思えます。これまで以上に手軽に学ぶ媒体が増えたことは良いことではないでしょうか。

様々な情報を選択しながら、より適した学びの機会を提供出来るように努めています。



8月スケジュール

- 6日(金) 創作クラブ、芸術クラブ、音楽クラブ
- 13日(金) ランチバイキング、嘱託医来診
- 17日(火) わっふるステップアップ講座
田中Dr.ケースカンファレンス
- 21日(土) 陣内食堂
- 28日(土) 帰宅予定日

毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週木曜日 ローソン移動販売
BeTREE
<営業時間>8:00~18:00



betree314

看護師便り

「日常を取り戻すために」

看護師 今村 万喜

三気の里でも、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。希望するすべての利用者の方のワクチン接種が9月初旬には終了する予定です。接種に関しては、メディアでも毎日のように取り上げられ、副反応については何を信じればよいのか不安になってしまっただけ多くの内容(デマを含む)が伝えられています。コロナウイルスの流行が始まってから、私たちが出来ることは、手洗い、嗽、マスク、ソーシャルディスタンス等の防御策のみでした。ワクチンを接種することで抗体が出来れば、感染した時の重症化を抑えることが出来ます。全く感染しないわけではありませんが、今までのようにビックビック・ドキドキしなくても人と会うことが出来るかもしれない(もちろん、今まで同様にマスクは必要ですが)。

日本国内の希望するすべての人がワクチン接種を済ませれば、行動の制限も少し緩和されるかもしれません。しかし、変異株の出現等の予測できないことも多くあり、すべてが手放しで喜ぶべきところではないかもしれません。

今までも、この先も、私たちに出来るのは、感染防止策に率先して取り組むこと。一日も早く日常を取り戻すことが出来ることを願っています。



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付】

- 三気の里家族会様
- 田中満子様 千田英文様
- 興呂木克昭様

【物品】

- 田中満子様 櫻木勇夫様
- 魚谷秀文様 清田栄一様
- 松村俊介様 宮本眞一様
- 渡邊正司様 小牧博典様
- 森川琇介様 柴田博子様
- 西田健一様 田中哲夫様
- 三島圭子様 井手上昌子様
- 中嶋久枝様 坂田多鶴子様
- 吉田和信様 玉永昇様
- 坂梨清美様 井上優様
- 甲斐賢二様
- 宇都宮建設様 山本住建様
- レモンガスくまもと様
- よつば調剤薬局様
- 【後援会】
- 森木美樹様 林千莎子様
- 今池隆則様 金森保様
- 松本聡子様 藤原芙佐子様
- 松永広美様 東矢真明様
- 米田孝一様 亀崎幸久様
- 大鷹直希様 白井桂子様
- 坂田安信様 後藤啓市様
- 【ボランティア】
- 前淵隆子様(ブラッシング)